

別記様式 1 - 2 (被相続人居住用家屋の取壊し、除却又は滅失後の敷地等の譲渡の場合)

被相続人居住用家屋等確認申請書

申請者 住所 安曇野市豊科 6000 番地  
電話 0123-45-6789  
氏名 安曇 一郎 印

下記家屋及びその敷地等は、当該家屋が「相続の時から取壊し、除却又は滅失の時まで事業の用、貸付けの用又は居住の用に供されていたことがないこと」(租税特別措置法第 35 条第 3 項第 2 号イ)、当該敷地等が「相続の時から譲渡の時まで事業の用、貸付けの用又は居住の用に供されていたことがないこと」(同法第 35 条第 3 項第 2 号ロ)、当該敷地等が「取壊し、除却又は滅失の時から譲渡の時まで建物又は構築物の敷地の用に供されていたことがないこと」(同法第 35 条第 3 項第 2 号ハ)、当該家屋が「相続の開始の直前において当該相続又は遺贈に係る被相続人の居住の用(居住の用に供することができない事由として政令で定める事由(以下「特定事由(※1)」という。)により当該相続の開始の直前において当該被相続人の居住の用に供されていなかった場合(政令で定める要件(※2)を満たす場合に限る。)における当該特定事由により居住の用に供されなくなる直前の当該被相続人の居住の用(第三号において「対象従前居住の用」という。)を含む。)に供されていた家屋」及び「相続の開始の直前において被相続人以外に居住をしていた者がいなかったこと(当該被相続人の当該居住の用に供されていた家屋が対象従前居住の用に供されていた家屋である場合には、当該特定事由により当該家屋が居住の用に供されなくなる直前において当該被相続人以外に居住をしていた者がいなかったこと)」(同法第 35 条第 4 項柱書き及び第 3 号)に該当しますので確認願います。

(※1) 通知における特定事由と同じ。

(※2) 通知における老人ホーム等入所中要件と同じ。

家屋及びその敷地等の所在地	安曇野市穂高12345番地67	
家屋の建築年月日	昭和50年1月1日	
被相続人の氏名及び住所	(氏名) 安曇 太郎	(住所)
相続発生日 (被相続人の死亡日)	平成28年6月1日	
相続による取得日 (例: 遺産分割協議が確定した日)	平成29年1月1日	
被相続人居住用家屋を取得した他の相続人の氏名及び住所	(氏名) (共有の場合に記載)	(住所)
被相続人居住用家屋の敷地等を取得した他の相続人の氏名及び住所	(氏名) (共有の場合に記載)	(住所)
家屋の取壊し、除却又は滅失日	* 売買契約の契約日	
譲渡日	* 解体した日	

(切り取らないでください。)

被相続人居住用家屋等確認書

上記家屋及びその敷地等は、当該家屋が「相続の時から取壊し、除却又は滅失の時まで事業の用、貸付けの用又は居住の用に供されていたことがないこと」(租税特別措置法第 35 条第 3 項第 2 号イ)、当該敷地等が「相続の時から譲渡の時まで事業の用、貸付けの用又は居住の用に供されていたことがないこと」(同法第 35 条第 3 項第 2 号ロ)、当該敷地等が「取壊し、除却又は滅失の時から譲渡の時まで建物又は構築物の敷地の用に供されていたことがないこと」(同法第 35 条第 3 項第 2 号ハ)、当該家屋が「相続の開始の直前において当該相続又は遺贈に係る被相続人の居住の用(居住の用に

供することができない事由として政令で定める事由（以下「特定事由（※1）」という。）により当該相続の開始の直前において当該被相続人の居住の用に供されていなかった場合（政令で定める要件（※2）を満たす場合に限る。）における当該特定事由により居住の用に供されなくなる直前の当該被相続人の居住の用（第三号において「対象従前居住の用」という。）を含む。）に供されていた家屋」及び「相続の開始の直前において被相続人以外に居住をしていた者がいなかったこと（当該被相続人の当該居住の用に供されていた家屋が対象従前居住の用に供されていた家屋である場合には、当該特定事由により当該家屋が居住の用に供されなくなる直前において当該被相続人以外に居住をしていた者がいなかったこと）」（同法第35条第4項柱書き及び第3号）に該当することを確認しました。

（※1）通知における特定事由と同じ。

（※2）通知における老人ホーム等入所中要件と同じ。

確認年月日	年 月 日
確認を行った市区町村長	<div data-bbox="598 627 1021 772" style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">市で記載</div> 印

【被相続人居住用家屋等確認書の交付のための提出書類の確認表】

<p>当該家屋が「相続の時から取壊し、除却又は滅失の時まで事業の用、貸付けの用又は居住の用に供されていたことがないこと」(租税特別措置法第35条第3項第2号イ) 当該敷地等が</p>	<p><b>この書類で確認する条件 (概要)</b>                  1、「建物が、相続から解体まで空き家になっていた」こと                  2、「敷地が、相続から売却まで他の用途に使っていない」こと                  3、「敷地に、解体から売却までの間、他の建物が建っていない」こと                  4、「被相続人が亡くなる直前まで建物に住んでいた」こと                  5、「被相続人が亡くなる直前に、他に建物に誰も住んでいなかった」こと</p>	<p>確認欄</p>
<p>相続人自身の住民票 (条件 4、5) * 相続発生時からの住民票の異動が連続して追える必要がある</p>	<p>被相続人の最後の住所地で取得 (条件 4、5) * 取得の際に必要な書類…①被相続人と相続人の続柄がわかるもの (通常はそれぞれの戸籍謄本) ②被相続人の死亡の事実がわかるもの (①と兼ねても可) ③相続人の本人確認書類</p>	
<p>②</p>	<p>被相続人の除票住民票の写し (被相続人が老人ホーム等に入所していた場合で、入所後別の老人ホーム等に転居していた場合には、当該被相続人の戸籍の附票の写しを含む。)</p> <p>申請被相続人居住用家屋の相続人の住民票の写し (相続開始の直前 (被相続人が老人ホーム等に入所していた場合は老人ホーム等入所の直前) から申請被相続人居住用家屋の取壊し、除却又は滅失時までの住所がわかるもの。相続開始の直前 (被相続人が老人ホーム等に入所していた場合は老人ホーム等入所の直前) 以降当該相続人が居住地を2回以上移転している場合には、当該相続人の戸籍の附票の写しを含む。)</p>	<p>敷地の売却の契約書 (条件 2)</p>
<p>③</p>	<p>申請被相続人居住用家屋の取壊し、除却又は滅失後の敷地等の売買契約書の写し等</p>	
<p>④</p>	<p>法務局が作成する家屋取壊し後の閉鎖事項証明書の写し</p>	<p>法務局で取得 (条件 1)</p>
<p>⑤</p>	<p>申請被相続人居住用家屋が「相続の時から取壊し、除却又は滅失の時まで事業の用、貸付けの用又は居住の用に供されていたことがないこと」及び申請被相続人居住用家屋の敷地等が「相続の時から譲渡の時まで事業の用、貸付けの用又は居住の用に供されていたことがないこと」を証する書類として以下のいずれか (複数の書類が提出された場合には、当該複数の書類の全て)</p>	
<p>(i)</p>	<p>電気、水道又はガスの使用中止日 (閉栓日、契約廃止日等) が確認できる書類</p>	
<p>(ii)</p>	<p>申請被相続人居住用家屋の相続人と当該家屋の媒介契約を締結した宅地建物取引業者が、当該家屋の現況が空き家であり、かつ、当該空き家は除却又は取壊しの予定があることを表示して広告していることを証する書面の写し (宅地建物取引業者による広告が行われたものに限る。)</p>	<p>不動産販売の広告等 (条件 1、2)</p>
<p>(iii)</p>	<p>所在市区町村が、申請被相続人居住用家屋が「相続の時から取壊し、除却又は滅失の時まで事業の用、貸付けの用又は居住の用に供されていたことがないこと」及び申請被相続人居住用家屋の敷地等が「相続の時から譲渡の時まで事業の用、貸付けの用又は居住の用に供されていたことがないこと」の要件を満たしていることを容易に認めることができるような書類</p> <p>例</p> <p>所在市区町村が認める者が申請被相続人居住用家屋の譲渡の時までに管理を行っていることの証明書</p> <p>申請者が所在市区町村又は所在市区町村が認める者に対して申請被相続人居住用家屋が空き家である旨の登録を譲渡の時までにしていることの証明書</p> <p>その他上記以外の書類 ( )</p>	<p>その他、条件 1、2 が確認できる証明書等</p>
<p>⑥</p>	<p>申請被相続人居住用家屋の取壊し、除却又は滅失の時から当該取壊し、除却又は滅失後の敷地等の譲渡の時までの申請被相続人居住用家屋の敷地等の使用状況が分かる写真</p>	<p>現地の写真 (条件 3)</p>

相続人自身の住民票 (条件 4、5)  
\* 相続発生時からの住民票の異動が連続して追える必要がある

被相続人の最後の住所地で取得 (条件 4、5)  
\* 取得の際に必要な書類…①被相続人と相続人の続柄がわかるもの (通常はそれぞれの戸籍謄本) ②被相続人の死亡の事実がわかるもの (①と兼ねても可) ③相続人の本人確認書類

敷地の売却の契約書 (条件 2)

法務局で取得 (条件 1)

不動産販売の広告等 (条件 1、2)

その他、条件 1、2 が確認できる証明書等

現地の写真 (条件 3)

一く目のうちいずれかひとつ

被相続人が老人ホーム等へ入居していた場合に追加で確認する条件（概要）  
 6、「被相続人が要介護認定や要支援認定を受けていた」こと  
 7、「入所していた施設が法で定める種類の施設に該当する」こと  
 8、「被相続人が入所中にも自宅を使用していた（物置としても含む）」こと

ページの続き)

老人ホームなどに入所していた場合は「」に全て

⑦	被相続人が老人ホーム等に入所していた場合には、以下の(i)～(iii)の書類	
(i)	<p>介護保険の被保険者証の写しや障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第22条第8項に規定する障害福祉サービス受給者証の写しなど（※）、被相続人が介護保険法第19条第1項に規定する要介護認定、同条第2項に規定する要支援認定を受けていたこと若しくは介護保険法施行規則第140条の62の4第2号に該当していたこと又は障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第21条第1項に規定する障害支援区分の認定を受けていたことを明らかにする書類</p> <p>※その他要介護認定等の決定通知書、市町村作成の要介護認定等を受けたことを証する書類、要介護認定等に関する情報を含む老人ホーム等の記録等でも可とする。</p>	介護保険の被保険者証など、介護認定等の記載がわかるもの（条件6）
(ii)	<p>施設への入所時における契約書の写しなど、被相続人が相続開始の直前において入居又は入所していた住居又は施設の名称及び所在地並びにその住居又は施設が次のいずれかに該当するかを明らかにする書類</p> <p>(ア) 老人福祉法第5条の2第6項に規定する認知症対応型老人共同生活援助事業が行われる住居、同法第20条の4に規定する養護老人ホーム、同法第20条の5に規定する特別養護老人ホーム、同法第20条の6に規定する軽費老人ホーム又は同法第29条第1項に規定する有料老人ホーム</p> <p>(イ) 介護保険法第8条第28項に規定する介護老人保健施設又は同条第29項に規定する介護医療院</p> <p>(ウ) 高齢者の居住の安定確保に関する法律第5条第1項に規定するサービス付き高齢者向け住宅（(ア)の有料老人ホームを除く。）</p> <p>(エ) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第5条第11項に規定する障害者支援施設（同条第10項に規定する施設入所支援が行われるものに限る。）又は同条第17項に規定する共同生活援助を行う住居</p>	入所契約書の写しなど、入所先の施設の詳細が確認できるもの（条件7）
(iii)	<p>被相続人の老人ホーム等入所後から相続開始の直前まで、被相続人が申請被相続人居を一定使用し、かつ、事業の用、貸付けの用又は被相続人以外の居住の用に供されたとを証する書類として以下のいずれか（複数の書類が提出された場合には、当該複数の書類の全て）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気、水道又はガスの契約名義（支払人）及び使用中止日（閉栓日、契約廃止日等）が確認できる書類</li> <li>・老人ホーム等が保有する外出、外泊等の記録</li> <li>・その他要件を満たしていることを容易に認めることができるような書類（ ）</li> </ul>	下記のいずれか（条件8）
備考	<p>(例：空家等対策の推進に関する特別措置法第11条に基づく空家等に関するデータベースから確認できた内容、上記書類によって確認ができなかった場合（該当する確認欄に「※」を記載すること。）において代替書類・補充書類及びヒアリング内容・申請者の申立により確認できた内容 など）</p> <p>上記の書類が揃わなかったり、他の書類で代替したい場合は事前に相談</p>	